

県内初 電子書籍貸し出し

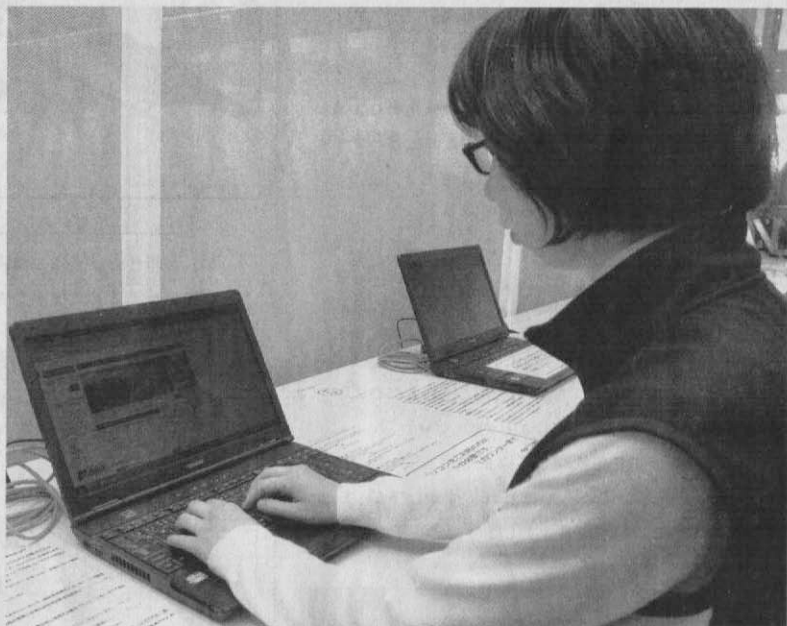
来館不要、返却も自動

徳島駅前のアミコビルに移転、1日に新装オープンした徳島市立図書館。目玉の一つが、県内初となる電子書籍の貸し出しだ。本を借りたり返したりするのに、いちいち図書館へ出向く必要のない「電子図書館」を、実際に利用してみた。

徳島市立図書館

アミコビル6階の貸出窓口をどこでも、いつでも利用可能訪れ、電子書籍を借りたい旨をだ。

告げると、IDとパスワード さっそくパソコンで徳島市立(英数字で各9桁)を交付して 図書館のホームページを開く。くれた。図書館へ行く必要があ 画面左下にある「徳島市電子図るのこの登録だけ。後は、自 書館」の表示をクリックする宅などパソコンのある場所なら、電子書籍貸し出しの画面に



徳島市立図書館が始めた県内初の電子書籍貸し出し。借りたり返したりするのに出向く必要のないのが魅力だ

「蔵書」の充実が課題

変わった。

「ログイン」と表示された左上の空欄に、IDとパスワードを打ち込む。左端に「哲学」「歴史」「自然科学」など10項目のジャンル名が並ぶ。借りたいジャンルをクリックして本を探す仕組みだが、題名や著者名からも検索できる。

現在「收藏」しているのは約650タイトル。大部分は作者没後50年を過ぎて著作権が消滅するなどのした書物を電子化したものだが、近年刊行されたビジネス書もある。

「文学」のジャンルをクリックすると、約500タイトルが出た。芥川龍之介、夏目漱石ら文豪に交じり、徳島市出身のSF作家・海野十三の作品も20タイトルが並ぶ。

海野の代表作「火星兵団」を借りてみた。貸し出し手続きは、題名をクリックするだけで完了。パソコン画面にページが開きで表示される。左下をクリックすると、次のページに進む。本をめくるような感覚だ。

1冊なら、簡単に複製されることはないのだろうか。試しにコピーしようとする、画面に著作権保護のため、コピーが制限されていますの文字が表示され、コピーはできなかった。

市立図書館によると、1タイトルにつき同時に3人が借りられる。貸出期間は15日間で、延長も可能なのは紙の書籍と同じだ。

閲覧はウィンドウズのパソコンのほか、情報端末iPad(アイパッド)でも可能。今のところマッキントッシュのパソコンや携帯電話、スマートフォン(多機能携帯電話)には対応していない。

紙の書籍との違いは、出先で読む際に持ち運ぶ必要がないこと。「貸し出し」といっても図書館のサーバーに接続してデータを読んでいる形なので、自宅のパソコンで読みかけを閉じ、出先のパソコンやアイパッドで開いて続きを読み継ぐこともできる。

何ととっても便利なのは本を借りに出向くことも、返却に行きも必要もないことだろう。クリック一つで貸し出しも返却も完了。また貸出期間が過ぎれば自動的に返却されたことになるので、返し忘れもない。

今後の課題は、著作権の切れ目がない著書や、最新刊といったタイトルの充実。図書館の田中瑞穂副館長は「これからどんなタイトルを増やしていきたい。また要望があればマッキントッシュや携帯電話への対応も検討したい」と話している。

ふと疑問が浮かんだ。電子データ

(滝本昇)